

認知症の人の地域生活を支援するケアプログラム推進事業

(事業実施期間：平成28年度～平成29年度)

- <事業目的> 認知症ケアで課題となる妄想、暴言、介護拒否等の行動・心理症状（BP
SD）を改善するケアプログラムの開発
- <実施方法> 公益財団法人東京都医学総合研究所に委託
- <対象地域> 世田谷区、足立区、武蔵野市

○ 認知症の人の90%は、初期から終末期に至る経過のいずれかの段階で、暴言や介護拒否などの行動・心理症状（以下「BP SD」という。）を発症し、在宅生活の継続が困難となるケースが起きています。

○ 認知症ケア先進国であるスウェーデンで開発された「BP SDケアプログラム」は、BP SDの症状を点数化し、「見える化」することで、ケアに関わる担当者が情報を共有するオンラインシステムと、認知症に関わる人材育成を行うプログラムで、スウェーデン国内の9割以上の自治体が導入しているものです。

オンラインシステムイメージ



研修の様子

○ 今回のモデル事業では、「日本版BP SDケアプログラム」を開発するため、実際に3区市の介護サービス事業所44か所の95人のケアマネジャー・介護職員が研修を受講し、在宅の認知症高齢者に対するケア計画の策定、オンラインシステムへの入力に取り組みました。

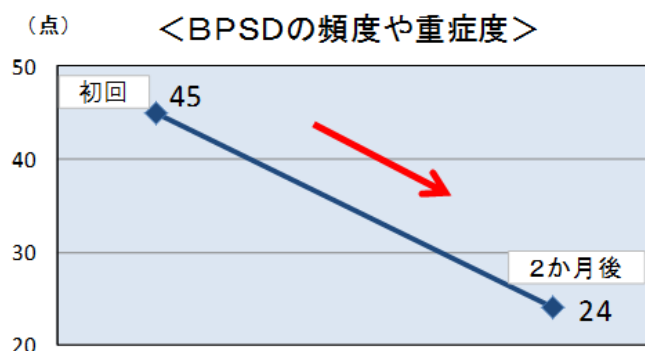


写真提供：公益財団法人東京都医学総合研究所

- その結果、このプログラムに参加した介護事業所では、認知症高齢者のBPSDの症状が改善した事例が多く見られ、日本版においても有効であることが確認されました。

改善例

イライラして動き回り、デイサービス中に頻繁に外に逃げ出そうとしていた利用者に対し、ケアプログラムを実践したところ、落ち着いてデイサービスで過ごせるよう改善



- 利用者のQOL（生活の質）や介護事業所における認知症のケアの質の向上につながることから、東京都では、今後、区市町村と連携し、この成果を広く都内に普及促進していきます。